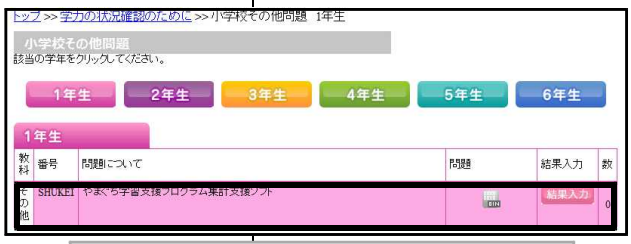
やまぐちっ子 学力向上だより

第５４号　H25.12.6
山口県教育庁義務教育課

「やまぐち学習支援プログラム」学期末評価問題や領域単元別評価問題の一層の活用

既にお知らせしているとおり、「やまぐち学習支援プログラム」を効果的、能率的に活用するため、学期末評価問題等の集計支援ソフトを次の場所に掲載し、提供しています。



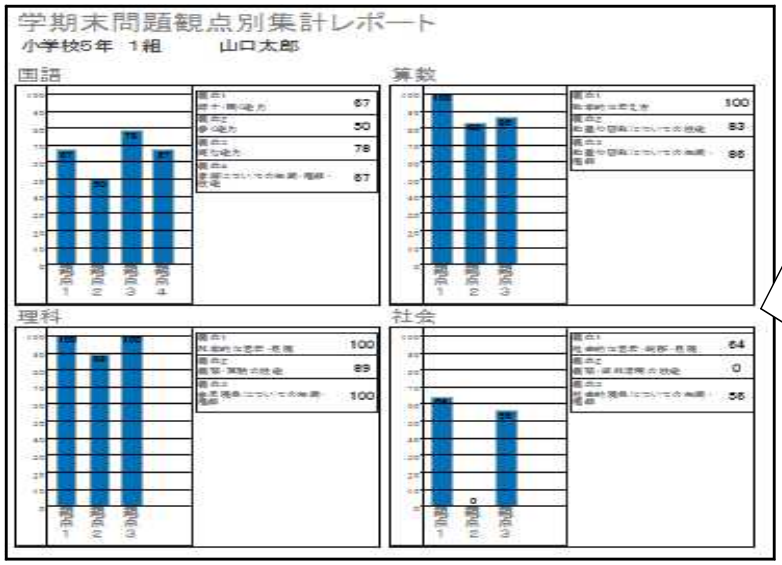
【小学校】その他問題⇒１年生

【中学校】その他問題⇒１年生

集計支援ソフトを使うメリット

【メリット１】　学期末評価に活用できる！

学期末評価問題や領域単元別評価問題の結果を入力すると、児童生徒の観点別平均正答率を表示した個票が印刷できます。



個票に結果を反映させたい評価問題を選択することができます。

【メリット２】　ウェブページへの結果入力の負担軽減！

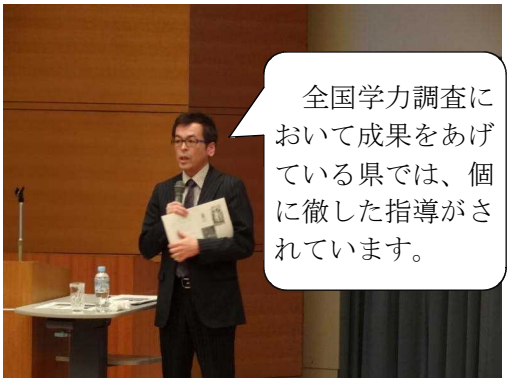
集計支援ソフトを使えば、学力状況確認システムへの結果入力が、「コピー＆ペースト → 送信」の簡単操作で行えます。

やまぐち学習支援プログラムは、県内の先生方が知恵を出し合い作成した山口県の共有財産です。多くの学校が入力することで、県の平均正答率の信頼性も高まります。より一層の活用をよろしくお願いします。

樺山学力調査官の講話から

国立教育政策研究所の樺山敏郎学力調査官には、５月に実施した「活用する力を高める研究協議会」において、全国学力・学習状況調査の問題をもとに、活用する力を高めるという視点でお話をいただきました。

１１月２７・２８日に行われた「学力向上校長研修会」でも、全国学力・学習状況調査を活用した授業改善について､お話をいただきました。その内容を少しご紹介します。



全国の学校を訪問しておられる樺山学力調査官からは、言語活動に関する問題点について、ご指摘をいただきました。

言語活動に関する問題点

【問題点①】「言語活動」が、教師による「させる」中心になっているのではないか。

→「今日は、･･･してもらいます。」などのように、教師の働きかけ（発問・指示）は、「させる」場合も当然あるが、できるだけ子ども主体の「ＤＯ（やってみたい)」になるように工夫したい。

→教師主導の一方通行の授業が見られ、子どもたちの言語活動の量が少ない。

【問題点②】何をねらった「言語活動」なのかが、明確になっていないのではないか。

→教師による必要かつ適切な指導が見えない。言語活動の「充実」には、教師の意図、仕掛け、ゆさぶりが必要である。

→表現の場を設定すればよいというような量的な「表現力」との関連だけで語られ､「思考力・判断力」といった質的な問いかけが弱い。「よく考えて･･･、しっかり･･･、分かりやすく･･･。」等の抽象的な教師の働きかけを具体化する必要がある。

知識・技能を習得し活用する学習活動の基盤は、言語に関する能力です。言語環境を整え、言語活動をさらに充実させましょう。また、知識・技能は、実際に言語活動により伝え合うことで、さらに定着します。